幸せまちをつくるんだいっ!

文＝山下治子
写真＝井伊杏

みんなでミュージカルを作るって、すごいな

桜のつぼみがほころぶころ、クロッチは劇団と区民が一緒になって作るミュージカルの練習場を訪れた。そこでは、小学1年生から78歳までの人たち総勢50名がみんなで台詞や歌や踊りに一所懸命。すっかり魅せられたクロッチ。すると演出の知久さんからすてきな提案が?!

ミュージカルの練習を見に行くぞ! ところでミュージカルって?

クロッチは、ホワ〜とあったかな南風に黒い毛並みをなでられながら、池袋の公園にたどりついた。見上げれば、桜の花がいい具合にほころんでいる。「きれいだなあ」。思わずニコッとした自分にすこし驚きながら、クロッチは東京・豊島区長の高野之夫さんことフクロウのナナマルから教えてもらった豊島区オリジナルミュージカルの練習場に向かったのだった。

「ニャア〜ン」

ノラ猫でも、出るところに出ればあいさつもするのがクロッチ。緊張しながら中に入ると、

「キャー、クロッチ! かわいい」

「クロッチちゃん、おててをつなぎましょ?」

「みんな、区報に出てたクロッチが来たぞぉ」

と、いきなり小さな子から小学生、中学生、若者、お年寄りまで、20〜30人ほどがドッと集まって、たくさんの笑顔で迎えてくれた。わぁ、この人たちがみんな一緒に練習してるのか。でも、おいら、ほんとはミュージカルって初めてなんだ。それにしても、笑顔、笑顔、笑顔! 不安と感動がグルグルになってボーッとしていたら、きれいな女の人にスッと抱きかかえられ、正面テーブルの上に座らされた。見晴らしがいい。ここって監督席?

「こんにちは、クロッチ。脚本・演出の知久晴美です。今日はここで私たちと一緒に練習を見てね」

おお、この方が豊島区のミュージカルを引っぱっている知久さんか! それにしても美しく張りのある声だ。スッとしていてカッコもいい。おいらも背筋ピンだぜ。

「ニャ、ア〜ン!」

劇団ムジカフォンテの代表で新作ミュージカルの脚本・演出も手がける知久晴美さんだよ!

「まあ、クロッチ! いい声。はい、では次のシーン。クロッチのようにいい声を聞かせてね」

小さな子からおじいさんまで、一緒に舞台を作ってる

穴があったら入りてえ、ってこういう気分? 頬が赤くほてったけど、そこはクロネコなのでみんな気づかない。フーッ、よかった。

練習場には知久さんのキビキビした声が響き、小学生や中学生、それに大人たちがサッと動き、メロディが流れるとクルッと回ったり手を広げたりして、歌い出した。

♪聞かせて〜、聞かせてよ〜、おじいさん〜♪

すると、そこに座っていたほんとうのおじいさんが語り始める。

「昔、おじいさんが若かったころ、戦後すぐの池袋駅のあたりはな……」

そうか、おじいさんも役者だったのか。なるほど、これがいろいろな世代の区民が一緒に作るミュージカル『朝の光のその中で〜80歳のいけふくろう』なんだな。クロッチは目を光らせ、耳をピクピクさせ聴いた。豊島区の歴史が語られ、歌われる。涙が出そうなほど悲しくなったり、笑ったり、ダンスに見とれたり、きれいな歌声にわがダミ声をうらんだり……。

ミュージカル「朝の光のその中で〜80歳のいけふくろう」
公演日時：2013年3月29日(金)〜31日(日)全5回公演
場所：東京芸術劇場シアターウエスト

「お疲れさまでした〜。しっかり練習して本番に臨みましょう」

「はい! ありがとうございましたぁ〜」

練習が終わった。出演者みんなで舞台を作っていくって、こういうことか……。

ミュージカル作りはみんなと一緒の笑顔作りだったのか!

「クロッチ、どうだった?」

知久さんの声でハッとわれに帰ったクロッチ。まだ半分うつろだ。

「知久さん、ミュージカルって、みんなで作るんだね」

すると、知久さんはさらに元気いっぱいに、

「そうよ、クロッチ! 舞台は人と関わって作っていくものなの。そしてそれは人生と同じなのよ!」

ヒエ〜、そうなんだあ。

「それに、このミュージカルはみんなで笑顔を作っていくプロセスでもあるの。クロッチは豊島区のセーフコミュニティの応援をしているんでしょ。笑顔がみんなの安全・安心を作り、それがみんなに広がればセーフコミュニティ、よね」

そ、そうなんです。知久さん!

「ニャ、ニャ、ア〜ン!」

「あら、クロッチ、またいい声になったわ! 表情もすてき。そうだ! クロッチも舞台に出ましょ!」

え〜っ! でもおいらノラ猫だし……。

「大丈夫よ、笑顔の街はみんなで作るものなんだから、ねっ」

「ニャア〜ン」。そうだな、「いけふくろう」っていう、としまフクロウのナナマルの親戚も登場することだし。クロッチの人生は笑顔つながりだ〜い!